



ユースケ プロフィール

参議院総務委員会
自由民主党青年局 次長
自由民主党総務部会 副部会長
自民党ネットメディア局 次長
超党派道州制懇話会事務局 次長

- 誕生日: 1979年7月12日
- 出身地: 徳島県阿南市
- 血液型: O型
- 趣味特技: グライダー・陶芸・温泉旅行・野球・カラオケ
- ポリシー: 天命に生きる



■ 略歴

1979年 阿南市見能林にて出生
1992年 徳島県阿南市立見能林小学校卒業
1995年 徳島県阿南市立阿南中学校卒業
(野球部主将、生徒会副会長を務める)
1998年 徳島県立富岡西高等学校普通科卒業
(生徒会長、野球部副将を勤める)
慶應義塾大学法学部政治学科入学
(体育会航空部主将を務める)
(全日本学生グライダー競技選手権大会八連覇達成・日本代表に選出)
2002年 慶應義塾大学法学部政治学科卒業
北米大陸横断旅行(NY→LA)達成
株式会社UFJ銀行
(現 三菱東京UFJ銀行)入行
(東京・本郷、日本橋にて法人取引を担当)
2007年 第28期生として財団法人松下政経塾に入塾
2010年 財団法人松下政経塾卒塾
自由民主党徳島県連 次期参議院議員候補 公募
7月11日第22回参議院議員選挙に当選(徳島選挙区)
全国最年少(31歳0ヶ月)

急募!! 現地現場に基づいた政治を行うために、徳島事務所ではこれらを募集しています。

くるまざ集会

デリバリー・ユースケ! あなたの下に直接ユースケが伺います。学生さんからおじいちゃんおばあちゃんまで5人~、1時間以上寄って頂ければ、現下の国政報告、本人の政治理念をお話させて頂きます。また皆さま方の思いや地域課題についても直接伺い、今後の活動に反映させて参ります。ぜひ熱い語り合いたいでしょう!



- 会場: ご自宅から公民館まで、どこでも。
- 時間: 1時間以上
- 日程・内容: ご希望を事前に、下記事務所までご連絡を!

後援会およびサポータースタッフ

ユースケは、ともに考え、ともに創る政治を目指しています。日本の国難たるこの時代、切り開くのは同じ思いで活動をご支援頂ける仲間が必要です。これからのユースケを、皆さまがお育てください! 後援会活動や広報活動について、ご協力頂ける皆さまを募集しています。



→後援会員入会

- ①事務所連絡先にある、電話/FAX/Mailに、氏名、住所、連絡先をお送りください。
- ②ホームページ内入会案内より、お手続きください。

→サポータースタッフ

本活動報告誌や、ポスターの掲示など、出来る範囲でユースケの地域活動をサポート頂けるスタッフを募集中です! 地盤・看板・カバンのしがらみなき政治家、ユースケをあなたの手でお支えくださいませ。ご連絡は事務所まで。

これからの 紙面予告

“読む、ユースケ。JOURNAL/Y”は、今後皆さまにユースケの国政活動をレポートしてまいります。国会での活動状況や、徳島での地元活動は当然のこととして、毎回号では対談企画や国会の仕組みの解説、個別政策についても掲載予定です。ご覧頂いて楽しい、わかりやすい、政治社会はもとよりユースケをもっと知って頂ける紙面に工夫して参ります。

皆さまから企画のご要望等も隨時お寄せください!

中西祐介事務所

東京事務所
〒100-8962
東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館622号室
Tel.03-6550-0622
Fax.03-6551-0622
✉yuusuke_nakanishi01
@sangiin.go.jp



青山通り
民主党政本部
有楽町線
JR東京駅
参議院第一会館
参議院第二会館
参議院第三会館
総理大臣官邸
九ノ内線
国会議事堂前駅
新幹線

ユースケ本人へ ✉info@yuusuke-nakanishi.jp
徳島事務所
〒770-0856
徳島市中洲町2丁目10番地
Tel.088-655-8852
Fax.088-655-8853
✉yuusuke-nakanishi
@nifty.com



“読む、ユースケ。JOURNAL/Y”好評発刊中! バックナンバーのお問い合わせはHPもしくは事務所までご連絡ください。

詳しい情報は
ホームページへ

<http://www.yuusuke-nakanishi.jp>

Designed by Yoko Nakabari



日に新たに

読む、ユースケ。 JOURNAL/Y

“日に新たに”に躍動する 参議院議員 中西祐介 情報誌 / ジャーナルワイ / Create our new age and make each day a-new

2011 Aug.

Issue 2



聴く。



三木 康弘
Yasuhiro
Miki

対談
その二
Talk Session



ユースケ

http://www.yuusuke-nakanishi.jp



日に新たに

情報誌

参議院議員中西祐介

読む、
ユースケ。

ユースケ。

Issue

2

2011 Aug.



■氏名 三木康弘
 ■役職 阿波製紙株式会社 取締役社長
 ■生年月日 1963年11月20日
 ■最終学歴 1987年3月 慶應義塾大学法学部政治学科卒
 ■主要経歴 1987年4月 (株)第一勵業銀行入社(現みずほ銀行)
 1992年10月 阿波製紙(株)入社
 1992年12月 同社 代表取締役社長に就任現在に至る
 ■その他組織の役職 2002年6月 社団法人徳島ニュービジネス協議会 会長
 2009年6月 四国生産性本部 副会長(徳島県支部長)
 2007年6月 四国経済連合会 常任理事
 2010年5月 中西祐介後援会 会長
 ■会社住所 〒770-0005徳島市南矢三町3丁目10番18号
 TEL:088-631-4281 Fax:088-632-5951



阿波製紙取締役社長 ユースケ×三木康弘 後援会長 対談

激動の選挙から政治家としてのいのちを頂いてちょうど一年。各分野でご活躍の皆さんとの対談企画第一弾!若くして老舗企業を引き継ぎ、トップ経営者として活躍される三木康弘後援会長と、ユースケが本音のトークセッション。そこには共に次代を見据える目線がある。

1.あの夏の辻立ち現場から

司会:今日は宜しくお願いします。しかし暑くなっています。ちょうど一年。昨日のように思い出します。

三木:ちょうど一年ですね。もう最後の最後の追い込みだったよね。

中西:え~、7月11日投開票。会長に毎日鉢巻を巻いて頂いていた頃だと思います。(笑)

三木:鉢巻ね~。もうこの時期は最後の一週間。毎朝あの街頭に立ってね。あれはなかなか良かったよね。あの場に立つて初めて分かる空気があるね。肌で感じる空気。

中西:面白いことに街頭では、支持の動向が手に取るように感じられるんです。感触が上がったり下がったり。

まあ、そういう意味では現地現場って政経塾のときに言葉で学ばせて頂いたんですけども、実際その最初に現場の空気感というか有権者の方々との距離が大事だと思ったのは本当に街頭ですね。あの原点に立ち返って、今日は本音をお願いします。

2.老若年齢よりも、志

司会:会長と議員は大学が同じという事や、若い時期に現職に就任など共通点も多い。

三木:基本はね違うんですよ。自ら志があつて立候補された人と、自分の父親がいてそれを引き継ぐという。親父の存在は大きかった。しかし引き受けた以上は、重責を受け止めなきゃいけないと。スタートは違うけども、決意・決断という共通点が多いのかな。30にして立った、やっぱりすごいなと、尊敬しています。

中西:去年当選以来、会長に様々お教えを頂いてあります。僕は若くしてなったけど年齢は関係ないと思いますね。特にこの世界。みな有権者の方がたくさんいらっしゃって、選ばれる。若いからという意味で注目もされ、また未熟な面も痛感しますが、なった以上は年齢関係なく期待に応えたいし、責任を果たしたいですね。でもやっぱり次の世代、時間が流れで20年30年経った時、若くしてある今の現場経験は非常に財産だと。特にこの一年間、戦後以来の課題が続いている。財政、外交安全保障、経済、そして東日本大震災。さらには政治の混迷。今すぐに一人で形を変えることはできないですが、今の経験と聞いながらを財産にして次を切り聞く、そんな強い決意を頂いた一年でもありましたね。

三木:まさにね、それを一番有権者、投票してくれた人が、期待したんだと思う。やっぱり30ですよね。これから世代に一番期待したのは未来・将来。この若さで積んだ経験で40代50代で本当に働くことです。どの世界も経験に勝るものはない。必ずや大政治家になって日本を救ってもらいたいね。大きな期待とともにしがらみもなく、思いっきり活動してほしい。何かを変えてくれるんじゃないかなって期待感ね。

中西:だからこそ、やっぱり原点が大事だと。耳を傾けるというスタイルですね。

三木:マンスリーの表紙、これいいね(笑)

中西:知識も然ることながら、有権者の方の思いに立った政治をしっかりしたいなど本当に思います。

3.日本は内部崩壊?!

中西:そういう意味で会長にぜひ伺いたいのは、普段お感じになる経営者からの視点。徳島経済、東京、あるいは海外は、日本をどう見ているか、ですね。私は、政治こそ「国家経営」でなくてはいけない、生産性の高い政治をせねばと思うのです。そうした意味でお聞かせください。

三木:倒産しそうな企業の、まさに末期症状。典型的なパターンですよね。

中西:ん…。

三木:まず、トップがどうしていいかわからない。思いつきで、信頼関係を失う。つまり経営陣が一枚岩にならないといけないのに、もうバラバラ。信用なく信頼感がない。それで結果的には心ある人は去っていくんですよ。取引先も社員も一緒にです。もちろん最後まで付いてきてくれる人もいる

けれども、決してトップのプライドのため残っているわけじゃないですね。

中西:たぶんその求心力というのは、人それぞれ持ち味は違うと思うのですが、経営者なら、その大志、本当の思いの原点が自分のためなく、企業の発展のためでしょう。歴史がゆいほど今の総理にはそれを感じない。海外にはどう映っているんでしょうね。

三木:非常に不思議だと。何故この国が成り立っているのか。日本はどうなっているの?っていうのが一番にありますよね。トップは大臣含めコロコロ変わってど。こんな状況でもやっぱり経済大国です。それぞれ日本企業は世界中で活躍してますよ。でも政治の混迷がいつまでも続いたら、それは成り立たないよね。

中西:企業経営にとって大切なエネルギーや税制、為替の動向も含めて、どんどん国外に出られる話をよく伺うんですよ。だから本当に日本がこれから復興するため、それを乗り越えて、3.11よりも更に発展した姿を政治が創出したい。

三木:だれも未来のことはわからない。だけど自信を込めて、こういうふうにこういう日本を創るんだと、だから国民の皆さん、協力してくれと、やっぱりそういう使命を持って語ってもらいたい。そうしたらね、言葉尻でなく本当に真剣さ、紳士さ、それだったら任せてもいい、きっと大丈夫だろという思いになるんですよね。思い一つになつてやっていったら、大抵のことはできると思う。さっきも企業が国家経営と一緒にだといましたけど、企業も日々何が起こるか分からない。でもね、何とかなる方法って必ずあるんですよ。普通、外部要因で企業が倒産するってことはなかなかない。だいたい倒産するのは、内部要因。内部崩壊が倒産の原因です。

中西:重い言葉ですね。まさに今の日本の社会情勢そのものです。

三木:だからね、どんなにまあ1000兆という借金があるとか、大変だと、海外も言われているけど、国民が一丸となって、リーダーのもとに、「よし!心一つに頑張ったら、絶対乗り越えられる」と、日本はそうやって、何度も乗り越えてきている。でもそういう気になれない今。だからこそ、何とかしてほしいですね。

4.日本のチカラ。

中西:メディアで言われている世界と、実際の政治活動、非常に差を感じますね。取材の入らないところでは自民党も与党をはるかに上回る復興策を提示するし、折衝の努力は継続している。復興に向けては与野党一枚岩です。でもテレビ新聞では政局報道ばかり。東京の宿舎にテレビないからあまり見てなかったんですが(笑)。

三木:(笑)。

中西:だから、一番僕らが今、ひとつのメディア体というか、自分が発信体として政治を伝えなきゃいけない。さっきの会長の言葉ですね。政治が今何を目指しているのか、まさにそこだなって、僕がこの一年で取り組んだのは、党を越えて政策を進めることです。政局や与野党の構成問わず、政治を動かす。それは非常に大事にしたいな。

今、自民はもとより民公みんなが所属議員に声かけして180人。超党派議連・道州制懇話会、幹事会です。とにかく日本のこれから発展の形を創っていくこと、取組をしています。

被災地だってそう。東北に適った復興策を東北の皆さんに責任を持って創って頂く。いつまでも中央集権、依存の構図では発展しません。そういう意味では日本型の発展社会を、石破茂さんや林芳正さんなど自民党の核となる中堅若手の先生方とスクラム組んで骨太の国家理念をつくりたい。それが自民党を再生する道でもあります。

三木:外国人が不思議がっている話ですね。なんで日本は強いかの?かと思つたら、やっぱり共同体意識でしょう。一番小さいのが家族、その次に町内会、地域。県とか次に四国という地域愛。廃藩置県になつても、地域の発展のためにがんばろうという、強いじゃないですか。そういう思い。だから中央が少々ガタついても持つのかな。でも少々でしょ

う。それが続くともう国がもちませんからね。外交の問題、経済政策もそれ大きな影響を及ぼす。でも今言ったようにこれから時代、私も道州制というのは必要だろなどと思いますよ。特に徳島県は78万人。30年後は60万人という推計もある。

中西:ビジョンある大きな変化を創らないといけない時代ですね。道州制もその一つ。

三木:だからこそ、20年後30年後も現役でやっている人、最後まで責任を持てる人、これが今頑張らなければいけない。政治家も経営者も一緒です。自らの課題として真剣に現実問題として捉えて、行動を起こしていくことですね。

5.日本を理想の国に

三木:例えばGDPが中国に負けて第3位、人口も減少局面。徳島県だけでなく、日本全国。これから日本に求められるのは、質を高めていくことだと思いますね。やっぱり世界のトップを目指す技術力。それとね、もうひとつは人間の人格。國の品格ね。渋沢栄一さんの言葉を借りると、「道徳経済合一」という精神。資本主義が絶対でもないし、共産主義がだめだというのはわかっているから、新しい形態を創つていかないといけない。その模範となる行動をやっぱり小さい企業でも自ら磨いて世界に挑戦したい。

中西:力が試されるんでしょうね、ホントの。

三木:そう。力はある一定規模以上の売上、収益力。その裏付けとして技術力・品質力・サービスとかを兼ね備える。でもその根底に必要なのが人間力です。僕が感化されている京セラの稻盛さん、松下幸之助さんも一緒に思うんですね。やっぱり人間として、会社として何が正しいか。そういうことを示せるような小さくても品質の高い企業経営を目指したいですね。

そうした「品質」によって、あんな国になりたい、ああいう国に生まれたいとか、日本はそういう世界の理想を集めの国であつてほしい。だから自分は、小さくても存在感ある企業として活動していきたいですね。

中西:今僕は、日本のことを良くしなきゃいけないという思いが、本当に強い。今日日本は自分たちで悲観しきる。世界にマネできない豊かさ、文化、民度を我々の先人は築いてくれた。だから、今が大事なんです。歴史の先に日本がさらに発展するためには、政治が日本の生まれ持った「資質」をどう生かすかということを考えなきゃいけないと。今の送電分離の話もそうです。

三木:ほ~送電分離。電力会社のね。

中西:はい。電気が普及し始めた明治期の日本の国民性を考えて分離するよりエリアで責任を持たせて任せると、いたずらに外國右ならでは日本の社会には合わない。そうした政治決断があったようです。ですから、日本人にとって今何が必要か、日本人の資質に合った発展形を常に考えたいな。だから今政治家として歴史を知り、日本人の歩みを政治の現場に落とし込まなければいけないと感じます。歴史の否定ではなく、歴史を紐解くことですね。なぜ戦争に突入せざるを得なかつたか、経済が落ち込んだ昭和初期に、時の財相橋本清が、どういう歩みを指導者として行ったか、どういう精神でこの国を担ってきたか、そういうのを通じて政策のことを学んで立案していきたいと思います。

三木:歴史の否定ではなく、紐解く。その通りだね。

中西:それから、その日本人の心って机上で学べることじゃないっていう一面もありますね。だから最初に戻りますが、やっぱり歩くというか、今日本人が何を考えているのか、肌身で感じることが大事だと思う。有権者の皆さんのが声を全て丸のみするんではなくて、俯瞰(ふかん)して見られるように、たくさんの方に色んな立場から意見を見伺いたいな。率直に思います。まあ、さっそく期待頂いたように、僕らの世代が中心になった時、本当に貢献できるよう自分を磨きたい。焦ることなく、努力を重ねながら、自分でも思いを固めてみたい。そういう大事な人生の期間を歩んでいる気がしています。



三木:そこはね、すごく羨ましいくらい。自分がポジションを掴み取ったんだと思うんですけど、出会いを大事にね。色々な人に聞きたくて聞けないんですよね、普通は…。でも立場、ジャンルを超えて幅広く耳を傾けてたら、語つてももらえる、言ってもらえる。それによって人間の幅がどんどん広げられる。ぜひぜひ深みのある、そして将来は高く志を実現する政治家に、期待していますよ。

中西:会長もお忙しいのでなかなかお会いできませんが、会うたびに成長したと確認頂けるように、またこれから2年目を迎えると思います。引き続きご指導宜しくお願いします。ありがとうございました。